

## にんじんの斑紋萎縮病（新称）

平成 26 年から令和 3 年にかけてオホーツク、渡島及び留萌地方のにんじん及びノニンジンに、ニンジン黄化病（病原：ニンジン黄化ウイルス、CtRLV）に類似するが、斑紋症状を伴うより激しい葉の赤化や萎縮症状が認められた。RT-PCR による検定の結果、これらからは CtRLV の他、ニンジン斑紋ウイルス（CMoV）及びニンジン黄化ウイルス随伴 RNA（CtRLVaRNA）が検出された。媒介者であるニンジンフタオアブラムシを用いた媒介試験の結果、CMoV 及び CtRLVaRNA は CtRLV に随伴して感染することが明らかとなった。これらの病原体の三重感染時に生じる症状は、CtRLV の単独感染（ニンジン黄化病）または CtRLV 及び CMoV との二重感染よりも激しかった。このことから、CtRLV、CMoV 及び CtRLVaRNA の三重感染による症状を新たにニンジン斑紋萎縮病とすることを提案した。

（ホクレン農総研・中央農試）



にんじんの斑紋萎縮病（ホクレン農総研 吉田氏 原図）